手漉き和紙に咲かせた「墨の華」日本一の紙のまち新春競書大会 開催

1月21日、伊予三島運動公園体育館で、新春恒例の「日本一の紙のまち四国中央市新春競書大会」がありました。

書道人口の拡大と伝統文化の振興を目的に、毎年開催されているこのイベント。今年は市内外から小中学生３３０人が参加しました。参加者たちは、藤原製紙所（金生町下分）が製作した手漉き和紙（半紙）に、学年ごとに決められた課題文字を力強く揮毫。日々の研鑽の成果を競いました。

会場には、昨年の書道パフォーマンス甲子園の作品が展示されたほか、三島高校書道部が書道パフォーマンスを披露。競技中には、川之江高校日本文化部の松岡知哉さん（1年）が琴を生演奏するなど、「日本一の紙のまち」、「書道パフォーマンス甲子園の聖地」四国中央市の新春一大イベントが鮮やかに彩られました。

なお、大会の結果は右の二次元コードからご覧いただけます。

書道パフォーマンス甲子園の聖地に袴姿のしこちゅ～が登場！

書道パフォーマンス甲子園の聖地である伊予三島運動公園体育館に、袴姿で大筆を持つ「しこちゅ～」のオブジェが登場。競書大会で初披露されました。

しこちゅ～は書道パフォーマンス甲子園が開催される7月28日まで体育館にいます。ぜひ一緒に写真を撮ってください。

11号バイパス・新法皇トンネル 篠原市長が国交省に早期整備を要望

1月17日、本市と新居浜市、西条市、西予市の市長が国土交通省を訪れ、堂故（どうこ）茂国交副大臣（写真中央右）と面談。国道11号が抱える課題やバイパス整備の効果を説明し、早期開通に向けた予算確保を要望しました。合わせて、新法皇トンネルなど、防災・減災対策に向けたトンネル整備を要望しました。

注意！3月18日(月)午前0時から土居IC（インターチェンジ）がETC専用になります

3月18日（月曜日）午前0時から、土居料金所がETC専用になります。

ETCが使えない車両で誤って土居ICに進入した場合は、後退・転回せず「サポート」と書かれたレーンに進み、一旦停止してください。インターホンなどで係員から指示がありますので、それに従ってください。

被災者の支援と被災地の復興に 大黒工業株式会社が義援金を寄贈

関西の営業所を通じて物資を届けるなど、震災直後から被災地支援に取り組んでいる大黒工業株式会社（石川力也代表取締役社長）が日本赤十字社に義援金を寄贈。２月１日に行われた寄贈式で、石川社長（写真中央左）から日本赤十字社愛媛県支部四国中央市地区長である篠原市長に目録が手渡されました。

児童・生徒の思いを被災地へ 市内小中学校から義援金 続々

能登半島地震で被災された方を支援するため、市内の小中学校から義援金が続々と寄付されています。

１月24日には中曽根小学校で義援金の寄贈式があり、同校の運営委員会の児童たちが、「全校児童の思いを現地の困っている人に届けてください」と細川哲郎市福祉部長に義援金箱を手渡しました。

「被災地支援に尽力します」 市職員を被災地へ順次派遣

市では、県被災地支援連携チームとして職員を派遣しています。１月29日には３人の職員が市役所を出発。避難所になっている輪島地方合同庁舎で、食事の提供など８日間にわたり避難所運営をサポートしました。この他にも被災者の健康管理など、のべ11人の職員を派遣しています。（２月19日現在）

相談・啓発・救済 人権擁護委員協議会が活動報告

人権擁護委員協議会（鈴木孝子会長）では、講演会や人権相談などを通した啓発活動により、人権問題の解消に取り組んでいます。

１月22日、篠原市長を表敬訪問し、１年間の活動報告をした鈴木会長は、「人と人との心をつなぐ素敵な活動ができていると感じています」と、取り組みの成果を話しました。

ダイドードリンコ（株）・市社協・本市 子育て支援で連携

自販機は市民交流棟と川之江ふれあい交流センターに設置

１月29日、大手清涼飲料水メーカーのダイドードリンコ株式会社（梶永貴裕中四国営業部長・写真左）と市社会福祉協議会（髙橋厚徳会長・写真右）と本市は、自販機の設置を通じた子ども食堂の支援など、幅広く子育て支援に取り組むことを目的に「子育て支援のための連携協定」を締結しました。

この日は、協定に基づいて設置された自販機第一号の除幕式も行われました。本市の景色や水引をイメージしたデザインの自販機は、ケーブルテレビの子どもキャスターによる音声ガイダンス機能付き。飲み物のほか、乳幼児紙おむつやおしり拭きも購入でき、売り上げの一部は、子ども食堂の補助に充てられます。

本紙上で紹介できなかった記事や写真は、市ホームページ「まちの話題」に掲載しています

テーマは「新宮で深呼吸。」新たな観光マップ誕生！

新宮町の自然や観光スポットを紹介するマップが約20年ぶりにリニューアル。1月24日に新宮公民館でお披露目されました。新たなマップは、地域おこし協力隊の大廣将也隊員が企画。愛媛大学の学生や市内在住のデザイナーの協力を得て制作されました。更なる新宮ファンの獲得が期待されます。

新宮茶ブランドを磨き続けて 地域おこし協力隊 小池隊員が活動報告

任期満了により1月末で退任した地域おこし協力隊の小池悟嗣（さとし）隊員が、篠原市長に3年間の活動内容を報告しました。

住民のみなさんに温かく迎え入れてもらえたこと、足しげく事業者を訪ね対話を重ねながら強い関係性を築いたことなど、本市で過ごした時間を振り返りました。

ちょっとそこまで 広報SAMPO

墨の華が咲き誇る 第20回 四国中央市児童・生徒書道展覧会 開催中！

「日本一の書道用紙のまち」四国中央市で、県書道用紙連合会が毎年開催している本展覧会に、今年は市内の小中学校から340作品が出品。入賞63作品を含む全作品が、展覧会の期間中、県紙産業技術センター（妻鳥町）に咲き誇りました。

なお入賞作品は、土居窓口センター（3月10日まで）、市役所（3月11日～24日）、川之江ふれあい交流センター（3月25日～4月7日）に展示されます。ぜひご覧ください。

市長のひとりごと

四国中央市長　篠原　実

がんばろう！がんばろう！

新年になり、能登半島地震、政党によるパーティー券の献金問題など、どれをとっても国政の命運を左右しかねない重要案件がまったなしであります。パレスチナ、ウクライナなど国家紛争は泥沼へ向かって進み、解決の目途は見えてこない。この地方の四国中央市でも経済、防衛、災害対応など、市民の生活に関わってくるものばかりである。

今、本市の職員も支援に、現地へ派遣して努力していただいている。明日は我が身の問題として勉強して、被災されたみなさんの力になり、がんばって欲しいと思っています。

いずれの問題も難しいものがあり、行財政を預かっている私のような立場からすれば、何とか力を合わせ解決に向けて前進して欲しい。政治献金もそんな知識、見識で、有権者が理解してくれますかね…という思いが強く残る。お金の問題にしても、さまざまな経験、修羅場を凌いできた自分からみれば。もう自分の生きてきた時代は過ぎ去って、全く新しい幕が開いて、私なんかの政治感性では、とてもついていけないと思う。

今年の後半は、市議会議員選挙があり、日程等の検討すべき課題もあるが、市長選挙も内容を含めて議論の対象になるだろうと思われる。話が大きすぎたり小さすぎたりして、うまく選挙の焦点となるのかなという不安もある。本市にしても、重大な課題はたくさんあるので、市民レベルで実りのある議論をぜひして欲しいと念願している。

被災されたみなさんが、一歩でも勇気が出てまたがんばろう、となりますよう、みなさんよろしくお願いします。支援に力をお貸しいただいた関係者に感謝申し上げます。